横浜市会議員（港北区）　市政報告　平成31年冬春号（Vol.43）

大山しょうじ 活動レポート

編集・発行／〒223-0053 横浜市港北区綱島西1-6-11-301 大山しょうじ

Close Up　定例会（大山しょうじの本会議質問）から

横浜にカジノはいらない！

市はカジノ（IR）に関して、「白紙」と「調査中」を繰り返すが、調査の1つとして市民アンケート等で市民の意見を聞くべき！横浜へのカジノ誘致は最終的には議会の議決により決まります。私は反対です。

横浜へのカジノ（IR）誘致については多くの懸念と疑問があります。ギャンブル依存症の人が増えるのではないか？地域の治安の悪化、犯罪の増加につながらないか？青少年の成長に悪影響を与えるのでは?マネーロンダリングの温床になるのでは?カジノ目当てに日本（横浜）に来る人も限定的で観光振興につながるのか？儲けの多くは海外のカジノ事業者が得るだけで、経済効果、地域振興につながるのか?斜陽産業であるカジノビジネスが今後中長期的に横浜で成功するのか？などなど。

これまでのマスコミや市民団体の調査でも、多くの市民が「反対」や「懸念」の声を示しています。

そして、何よりも大前提として、多くの人の不幸の上に成り立つカジノに依存すべきではないと考えます。

カジノ（IR）誘致の横浜市の見解は、ご案内の通り、①白紙②（国の動向を見据え）検討中であり、現状この域を超えることはありません。

議会でもカジノ（IR）に関するどのような質問に対しても、市は、「白紙」、「検討中」の繰り返しですので、**私は9月11日の本会議では、林市長に「横浜市としていずれIRに関するより詳細な調査を行う必要がある。IRに関していつ頃、どのような方法で市民意見をとろうと考えているのか?」と少し違った視点で質問しました。市民の皆さんの意見を聞けば、これまでのマスコミ等の調査と同様に多くの市民の皆さんが反対の意向であることが予想されるのも見越してのことです。**

カジノ誘致に関して、今後しばらくは、横浜市の「白紙」、「検討中」の状態は続くと思われますが、まずは横浜市がカジノ誘致を断念するように声を上げていきます。しかし、万が一、横浜市が誘致を決断し、国に整備計画の認定申請のための議決を議会に求めてきた時は、もちろん私は反対します。

最後に、以下、**本会議での私の質疑の議事録**と私の質問を取り上げた**新聞記事**です。是非ご覧下さい。

【新聞記事は裏面をご覧ください】

◀本会議で質問する大山しょうじ

大山しょうじの質疑議事録・抜粋（9月11日_本会議）

大山▶このたび、中期4か年計画2018～2021の原案がまとまり、今定例会に議案として提出されました。原案策定に向けては、本年5月に公表された素案に対するパブリックコメントを実施し、830人・団体、2,129件の意見が寄せられています。

パブリックコメントで、様々な意見が寄せられた中で、特に多かった項目は「統合型リゾート（IR）」と、「中学校昼食」に関するもので、この2つで全体の3分の1を超えています。特に、統合型リゾート（IR）についての意見は433件、意見総数の20.3%と最も多く、そのうち、反対など否定的な意見が407件であったとのことです。

そこで、まず、パブリックコメントでIRについて否定的な意見が多かったことについてどのように受け止めているのか?

林市長▶IRに関して市民の皆様の関心が大きいことを表していると思います。IRを構成する施設の一つであるカジノに起因した、依存症への懸念などについて、多くのご意見をいただきました。また、IRによる観光振興などに期待する声もいただきました。横浜市はIRを「導入する・しない」について判断はしておりませんが、IRについては、様々なご意見がありますので、横浜市の将来にとって良い方法をしっかりと検討してまいります。

〈裏面に続く〉

【タウンニュース 平成30年11月15日号】

市政報告

4年に一度じゃない、一生に一度の思い出を横浜の子どもたちに！

横浜市会議員　大山しょうじ

先日（10月23日）の市会決算特別委員会（市民局審査）での私の質問から―。

いよいよ来年秋にはラグビーのワールドカップ2019が、翌年2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。横浜市内でも日産スタジアムや横浜スタジアムが競技会場となっており、横浜市もハード、ソフト両面からその準備を進め、「4年に一度じゃない。一生に一度だ」と活発な普及啓発活動を行っています。

例えば、ラグビーについては、小学校でのラグビー元日本代表選手などによる講演やタグラグビー教室、親子ラグビー教室など、また、オリンピック・パラリンピックに関しては、英国代表選手と市内の子どもたちとの交流や、世界を舞台に活躍してきたオリンピアン・パラリンピアンの学校訪問事業などを行っています。

海老名市、東京都では素晴らしい取組み発表

私はそうした盛り上げの取組みは進めつつも、「4年に一度じゃない。一生に一度の世界最高峰の試合、競技を直接観戦する機会を横浜の子どもたちに提供するべき」と強く求めました。きっと子どもたちの記憶にいつまでも残る何ものにも代えがたい「一生に一度の思い出、レガシーとなることでしょう。

近隣の自治体、海老名市や東京都では、既に子どもたちに東京2020大会を観戦する機会を提供することを発表しているのです。

市は「やる」という方向性を示すべき！

副市長の答弁は、ラグビーについては「現段階では非常に難しい。組織委員会に働きかけていく」。東京2020大会については「未来を担う子どもたちにどう伝えていくかは本当に大事なこと。観戦機会もその一つ。他の自治体の取組みも参考に、今後横浜市としての対応を検討していく」とのことでした。

行政側にとっても、ラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピックは一生に一度の取組み。それぞれの大会で今回やらずして次はいつやるのでしょうか？ラグビーワールドカップまでにまだ1年、オリンピック・パラリンピックまでまだ2年あります。横浜市の英断を！

お声をお寄せ下さい！

その他、プロスポーツチームによる経済効果、地区センター・スポーツセンター体育室への空調機設置、地域防犯カメラ設置補助事業、落書き行為の防止関する条例施行後の取組み、災害時の行方不明者等の個人情報の取扱いなどについて質問しました。

質疑の議事録は用意ができ次第、私のブログにアップします。ご意見・ご提案をお寄せ下さい。

大山しょうじ
プロフィール
■昭和43年4月10日生まれ
■温暖化対策・環境創造・資源循環委員会（副委員長）
■新たな都市活力推進特別委員会
■港北区篠原東在住、事務所は綱島西
団&團:045-431-7047
✉:shoji@ooyama.net

多くの子どもたちに観戦のチャンスを!